

香川大学研究室訪問交流講座 開催しました！



- 日時 令和5年8月18日(金)13:00~16:00
- 場所 香川大学瀬戸内圏研究センター庵治マリステーション(高松市庵治町鎌野)
- 講師 末永 慶寛 氏 (香川大学創造工学部教授)

8月18日(金)、香川大学瀬戸内圏研究センター庵治マリステーションにて、香川大学研究室訪問交流講座を開催し高校生8名が受講しました。本講座では香川大学の調査船に乗り、「海のゆりかご」として重要な役割を果たしている藻場や人工魚礁を見学し、香川大学の先生や学生との意見交換を行いました。

調査の前に、末永先生の研究対象である“藻場”についてお話しいただきました。藻場は水質の浄化、生物多様性の維持、海岸線の保全、環境学習の場となるなど様々な機能や役割を持っていますが、海砂の採取などにより藻場が失われつつあるそうです。また、香川県の漁獲量と藻場面積の推移についても解説があり、受講者たちは藻場の重要性を改めて実感した様子でした。そして、失われた藻場を再生するため末永先生が開発した人工魚礁の説明を聞いた後、香川大学の調査船「カラヌスⅢ」に乗船し、人工魚礁を沈めているポイントへと出発しました。



出発して5分ほどで最初の観察ポイントに到着しました。船内から小型の水中ドローンを沈め、その様子について末永先生より解説がありました。天然のアマモ場や沈めた人工魚礁に群がるマダイやベラ、立ち泳ぎするメバルなど初めて見る映像に受講者たちは興味津々な様子でした。

次の観察ポイントでは、人工魚礁の突起部分にたくさんの海藻が付着している様子がはっきりと確認できました。末永先生の開発した人工魚礁は、突起部分のブロックが着脱可能で海藻を根から刈り取ることなく簡単に別の場所へ母藻移植が可能で、藻場に影響が少ないという説明がありました。



調査を終え、庵治マリステーションに戻ると末永先生の人工魚礁の研究についての解説がありました。水理実験による流動抑制パネルの効果検証や数値モデルを用いた設置場所の検討方法など、大学の研究開発にまつわる専門的なお話に受講者たちは熱心に耳を傾けていました。また、魚類廃棄物を利用した環境改善技術のお話では、焼いた魚の骨が水銀やヒ素を吸着する効果があるという解説に、新たな気づきを得た様子でした。



最後に、香川大学の学生との交流会が行われました。大学生から大学での生活、入学して良かったことなどを語っていただきました。そして、高校生に向けて「今のうちからやりたいことを明確にすることが大切」というアドバイスがありました。講座終了後のアンケートでは、「人工魚礁の研究を行っている香川大学により興味を持った」、「知らない事ばかりで新しい発見があった」、「船に乗って藻場を見ることが出来て良かった」という声があり、香川大学の里海に関わる研究を実際の現場で体感できる有意義な講座になりました。